

青森農研フラッシュ

研究成果

(地独) 青森県産業技術センター・農林部門

秋出しトルコギキョウの開花抑制と品質向上

農林総合研究所

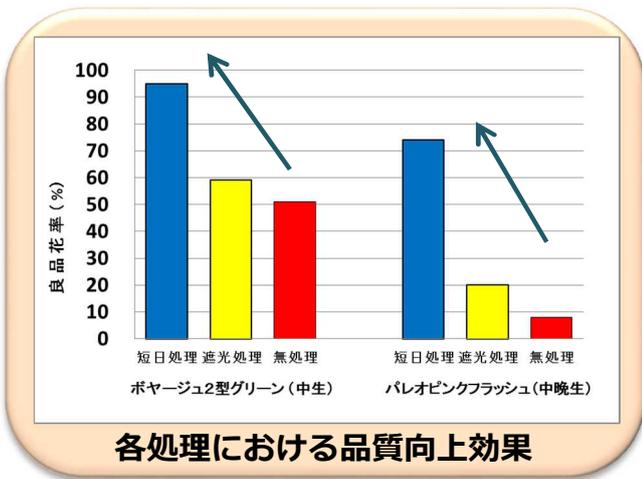
秋出しトルコギキョウの栽培において、短日処理及び遮光処理が開花抑制と品質向上に有効であることを確認しました。定植後の1か月間、短日処理を行うことで、開花が10日から1か月程度抑制され良品花率が40%程度向上すること、また定植後の1か月間、遮光率40%程度の白寒冷紗を展張することで、開花が3日から5日程度抑制され良品花率が10%程度向上することを確認しました。

目的・背景

トルコギキョウの夏秋期栽培においては、花芽分化から開花時期が高温・長日条件になるため、開花時期の前進、短茎開花による品質低下が問題となっています。開花抑制・品質向上については短日処理が有効ですが、秋出し栽培のための短日処理期間や開花抑制の程度についてはこれまで調査されておりませんでした。そこでこれらについて調査すると共に、労働負担の大きい短日処理に変わる新たな手法として白寒冷紗による遮光処理の効果についても調査しました。

内容

- ◆ 定植後1ヶ月間、畦上に遮光資材をかけて暗黒にし、9時間日長にすることによって開花盛期が10日～4週間程度抑制され、切り花品質が向上します。〔短日処理〕
- ◆ 定植後1ヶ月間、遮光率35～40%の白寒冷紗を用いて遮光することで、開花盛期が3日～5日程度抑制され、切り花品質が向上します。〔遮光処理〕



品種	処理	開花盛期	抑制日数
ポヤージュ2型グリーン(中生)	短日処理	9月7日	+11日
	遮光処理	8月30日	+3日
	無処理	8月27日	—
パレオピンクフラッシュ(中晩生)	短日処理	10月12日	+26日
	遮光処理	9月21日	+5日
	無処理	9月16日	—
ファイナルホワイト(晩生)	短日処理	10月30日	+32日
	遮光処理	9月28日	0日
	無処理	9月28日	—

技術の活用・注意点

- ◆ 短日処理や遮光処理による品質向上効果や開花抑制は品種の早晩生によって異なると考えられます。
- ◆ 遮光処理に比べ短日処理の方が品質向上及び開花抑制効果が高いです。
- ◆ 定植後から発蕾までの間に日照量が少ない年では、遮光処理により切り花品質が低下する場合があります。
- ◆ 遮光処理を2か月間行うと品質が低下するので、1か月間の遮光後、寒冷紗を除去する必要があります。

お問い合わせ

農林総合研究所 花き・園芸部 (TEL 0172-52-4341)